

# 11月13日のウクライナ情報

安齋育郎

## ①Sputnik【10日のニュース】ガザ、人道回廊設置も停戦見えず ウクライナ軍、自然保護区に白リン弾(2023年11月10日)

世界では毎日様々な出来事が起こっている。ここでは今日の国際ニュースをダイジェストでお届けする。

### イスラエル・パレスチナ紛争

#### 人道回廊設置も、停戦の道筋はなし

イスラエル軍は10日、直近24時間で3人のハマス司令官を殺害、ガザ地区のシファ病院近くでは約50人の戦闘員を撃破したと発表した。

一方、パレスチナ保健省は同日、イスラエル軍によるガザ市中心部への住宅攻撃で12人が死亡したと明らかにした。イスラエルはガザ北部の民間人が南部に避難するための、1日4～7時間の人道回廊の設置を発表しているが、停戦の動きはなく犠牲者は後を絶たない。



#### 周辺諸国との小競り合い

こうしたなか、イスラエルと周辺国の領内にある武装組織との小競り合いも続いている。

10日のイスラエル軍や各勢力の発表によると、イスラエルはレバノン国境地帯の武装組織ヒズボラのインフラをミサイルで攻撃した。また、南部エイラトへのドローン攻撃の報復としてシリア領を空爆。

これを背景にイラクやシリアに展開する米軍基地がドローン攻撃を受ける事案も相次いでおり、中東各地で一触即発の緊張状態が続いている。



## 初の宇宙戦争

イスラエル国防省は 10 日、大気圏外での弾道ミサイル迎撃を目的とした防空システム・アロー3 の初の実戦使用が成功したと発表した。一部報道では「宇宙空間での初めての戦闘」とも表現されている。

イエメン北部を実効支配する親イラン武装組織・フーシ派が 9 日に放った弾道ミサイルを、飛翔高度 100 キロ、最大射程 2400 キロのアロー3 が迎撃した。大気圏外用迎撃弾の実戦使用は史上初めて。

## ウクライナ情勢



### プーチン大統領、南部司令部を視察

ロシアのウラジーミル・プーチン大統領は、カザフスタンへの訪問を終えた帰途、南部ロストフ・ナ・ドヌーの特別軍事作戦司令部を視察した。10 日、ドミトリー・パスコフ大統領報道官が明かした。

視察にはセルゲイ・ショイグ国防相、ワレリー・ゲラシモフ参謀総長らも同行した。プーチン大統領は特別軍事作戦の進捗状況に関する報告を受けたほか、最新の軍装備品を点検。将官らを激励した。

### ウクライナ軍、自然保護区に白リン弾

ウクライナ軍は、南部ニコラーイウ州(ロシア語:ニコラーエフ州)のキンブルン砂嘴にある自然保護区を白リン弾とクラスター弾で攻撃している。ロシア軍の偵察旅団「ドニプロ」の戦闘員がスポーツニクに語った。

[https://videon.img.ria.ru/Out/Flv/20231110/2023\\_10\\_11\\_fosforgotove\\_2wmtk2m0.1uf.mp4](https://videon.img.ria.ru/Out/Flv/20231110/2023_10_11_fosforgotove_2wmtk2m0.1uf.mp4)



### ウクライナ軍のドローン攻撃

露国防省は 10 日、クリミア半島上空でウクライナ軍のドローン 2 機を撃墜したと発表した。また、

モスクワの南に位置するトゥーラ州でも 1 機が撃墜された。



### 米、ウクライナ支援の削減を認める

米国防総省のサブリーナ・シン副報道官は 9 日、ウクライナへの新たな軍事支援パッケージが減額されたことを公式に認めた。議会の混迷で支援予算案が成立しないことが原因。

これまでに米ホワイトハウスは、ウクライナ支援資金の 96 パーセントを使い果たし、軍事支援のために残されているのは約 11 億ドル(1666 億円)だと明かしていた。

シン報道官は今回の処置を「ウクライナ支援を継続するため」と説明すると同時に、「今後はますます少なくなるだろう」ともつけ加えた。

<https://sputniknews.jp/20231110/10-17641838.html>

## ②【視点】日本が直面する脅威 サバイバル瀬戸際で動くも動かずも同じく危険？ (2023 年 11 月 10 日)



上川陽子外務大臣は 11 月 3 日から 5 日まで、今回の中東紛争勃発以降初めてヨルダンとイスラエルを訪問した。

### 慎重と敬遠

日本政府は無条件でイスラエルを支持するという米国の政策から離れ、バランスを取ろうとしていると、ロシア科学アカデミー、中国・現代アジア研究所、日本研究センターのヴァレリー・キスタノフ所長は語る。

「日本は中東においては旧来の方針を堅持しています。アラブ、イスラエルのどちらの側にも積極的に支援せず、できる限り中立でいるという立場です。なぜなら日本は、アラブ諸国が親イスラエルの西

側諸国に石油禁輸措置をとった 1973 年の石油危機をまだ忘れていないからです。当時、中東石油への依存度は 80%だったため、日本は本当にパニックに陥りました。ところが、今ではそれは 90%を超えています。もし今、日本がアラブ諸国を敵に回せば、日本経済にとって大惨事になりかねません。日本にとって、いかなる中東紛争であっても、それへの関与は生存に関わる問題なんです」

ヴァレリー・キスタノフ(ロシア科学アカデミー・日本研究センターの所長)

10月18日の国連安全保障理事会のガザ地区「一時停戦」決議に、米国が阻止するなか、日本が賛成した理由はひとつにはここにある。



### 日本が恐れる紛争の拡大

ロシア科学アカデミー、東洋学研究所のドミトリー・モシャコフ教授(史学博士)も、日本はこの紛争解決でリーダーシップをとる準備ができていないと考えている。

「この紛争はアラブ世界にとって非常に重要です。日本政府はアラブ人に同情し、紛争終結のためのいかなる合理的な提案も支持する姿勢を示すことで、紛争への関与を示しています。ただ、日本はこのプロセスで片方の当事者のみを支持しながら主導権を握ることは明らかに志向していません。日本の主な懸念は、紛争拡大で中東からの原材料の供給が脅かされることにあります。イスラエル国防軍は中東のあらゆる目標を攻撃する用意があると宣言しているからです。この地域からのエネルギー供給に混乱が生じた場合、中国はいつでもロシアに方向転換することができますが、現況で日本にはそのような選択肢は与えられていません」

ドミトリー・モシャコフ(ロシア科学アカデミー・東洋学研究所教授)

つまり、日本の外務大臣がイスラエルとヨルダンを訪問した主な成果は、紛争の人道的停止に関する非常に慎重で控えめな声明だけであり、それ以上のものではなかったが、人道的停止への希望もまた、大きくはなかった。

イスラエルは人質全員の解放まで人道的停止を認めないとしている。モシャコフ氏は、これはイスラエルの厳格な姿勢であり、今後も変わることはないだろうと見ている。したがって、今回の訪問は形式的なものでしかない。

日本の外交は紛争終結にむけた大きな原動力にはならない、しかし日本が受けるであろうリスクは日々増大している。

## ③ノルド・ストリーム破壊工作はウクライナ軍大佐が指揮 米紙が暴露 イーロン・マスク氏も反応(2023年11月12日)

ガスパイプライン「ノルド・ストリーム」の破壊工作はウクライナ軍のロマン・チェルヴィンスキー大佐

が指揮していた。米ワシントン・ポスト(WP)紙がウクライナとヨーロッパの役人からの情報として報道した。報道によれば、破壊は大佐の単独行動ではなく、ザルジニー軍総司令官に報告する役人からの命令で実行されていた。

このWP 報道には X(元 Twitter)の CEO で米大富豪のイーロン・マスク氏も反応。一言、「興味深い」とコメントしている。

### WP 報道の主な内容

- ・爆破工作は大佐の単独行動ではなく、作戦計画にも関与していない。ザルジニー軍総司令官に報告する役人からの命令で実行。

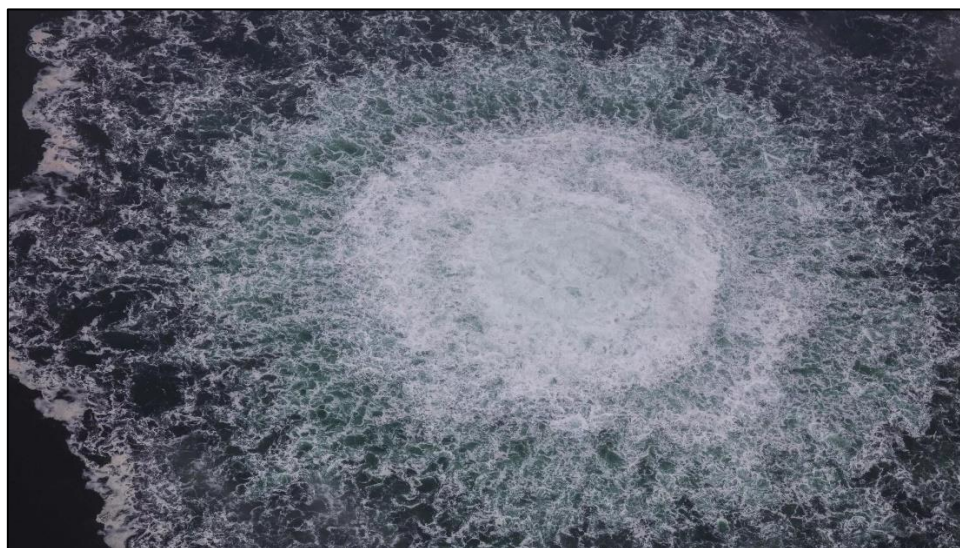
- ・作戦は、ゼレンスキーを闇に葬るために計画された模様。

- ・チェルヴィンスキー自身はノルド・ストリームス爆破への関与を否定。だが以前には、露軍に対する作戦を実行している。

- ・チェルヴィンスキー大佐は 2023 年 4 月、ロシア空軍機のハイジャック計画を企てたが、作戦は漏洩。結果、軍機が駐機のウクライナ領キーロヴォグラード州カナトヴォ飛行場はロシアのミサイル攻撃を受けてしまった。

ノルドストリームはロシアと欧州を結ぶガスパイプライン。2022 年 9 月 26 日夜、3 つのパイプラインがほぼ同時に損傷。爆発現場からは異物と爆発物の痕跡が発見された。

爆破事件への米国の関与は、ピューリッツァー賞の米国人、シーモア・ハーシュ記者がすでに断定。一方で西側メディアは、親ウクライナ派の仕業と報道。これをハーシュ氏は「論理的に一番の(関与が疑われる)バイデン米大統領」以外の人物に世間の注目をそらす CIA の仕業と見なしていた。



<https://sputniknews.jp/20231112/17650673.html>

## ④EU、弾薬 100 万発供給は困難 ウクライナへ、計画進まずと報道(2023年11月1日)

【キーウ共同】米ブルームバーグ通信は 10 日、来年 3 月までにウクライナに弾薬 100 万発を供与する欧州連合(EU)の計画が進んでおらず、達成は困難だと報じた。EU が加盟国に説明したとしている。弾薬はウクライナで不足が深刻化する一方、ロシアは自国生産を加速し、北朝鮮からも提供を受けている。

ロシアが核攻撃に踏み切ったらアメリカはどこに報復するか？ 米政権内で行われていた机上演習の衝撃的な中身

EUは3月、1年以内に100万発の弾薬をウクライナに供与する計画を承認した。ブルームバーグによると30%しか達成できていない。侵攻が長引く中、弾薬不足は対策が急務となっており、EUは近く開く国防相らの会合で話し合う見通し。

ロシア国防省は10日、ウクライナ軍が南部ヘルソン州のドニエプル川東岸のロシア支配地域で同日までにウクライナ軍が上陸を試みたが、撃退したと発表した。ウクライナが軍人約500人と小型艇15隻を失ったと主張。9日にも上陸を図ったウクライナ軍海兵旅団の部隊を撃破し、11人を捕虜にしたとした。



ロシアの攻撃を受けた農場のがれきを眺める経営者＝10日、ウクライナ・ヘルソン近郊(AP＝共同)  
(KYODONEWS)

<https://news.yahoo.co.jp/articles/069f962e38cbeb824055fd1eb6e59f3dca5e8774/images/000>

## ⑥スウェーデンのNATO加盟、ハンガリーが批准先延ばし…ぎりぎりまで抵抗して譲歩引き出す戦術か(2023年11月11日)

スウェーデンの北大西洋条約機構(NATO)加盟を巡り、ハンガリーが承認手続きを先延ばしにしている。ぎりぎりまで抵抗して譲歩を引き出す戦術とみられるが、NATOとしては、今月末に「32か国体制」とする計画が頓挫しかねず、懸命の説得を続けている。(ブリュッセル 酒井圭吾、ベルリン 中西賢司)

NATOのイェンス・ストルテンベルグ事務総長は8日、ブリュッセルでハンガリーのノバーク・カタリン大統領と会談。共同記者会見で「ハンガリー議会は、これ以上遅れることなく批准を決議すべきだ」と強く求めた。

スウェーデンの加盟実現に向けて残された手続きは、トルコとハンガリーの議会批准のみだ。最大のネックと目されてきたトルコは、タイプ・エルドアン大統領が10月23日に加盟を認める議定書に署名し議会に送付した。批准確実とみたNATOはスウェーデンの正式加盟を決定する場として今月28～29日の外相理事会開催で調整に入った。

ところが、トルコに追随するとみられていたハンガリーの議会は10月24日、ビクトル・オルバン首相率いる与党フィデスが採決を拒否した。

オルバン政権の強権政治に懸念を示すスウェーデンへの不満が表向きの理由だが、法の支配に懸念があるとして凍結された欧州連合(EU)補助金の支給に向けた交渉材料にするのが本音との見方が強い。ハンガリーの物価上昇率(前年同月比)は9月、EU平均の4・9%を上回る12・2%を記録し、経済対策の財源が必要という背景もある。

ハンガリーは「自国第一」を掲げ、NATOやEUに加盟しながら、中露との協力も重視する。ウクライナへの侵略開始後もロシアから天然ガスの輸入を続けてきた。その一方で、EUの対露制裁案に当初は反対しつつも最終的には同意し、補助金凍結の一部解除につなげるなどしたたかな外交を展開する。

ノバーク大統領はストルテンベルグ氏との共同記者会見で、批准の時期を明言しなかった。外相理事会までに決着するかどうかは未知数な状況だ。



北大西洋条約機構(NATO)本部。ブリュッセルで(読売新聞)

<https://news.yahoo.co.jp/articles/2ee72ef251c975ee11f96b52a9df4970018897cd/images/000>

## ⑥ウクライナ戦争捕虜がロシア軍に「志願」、国営メディア報道 国際法違反か(CNN, 2023年11月11日)

(CNN) ロシア国営RIAノーボスチ通信はこのほど、戦争捕虜を含むウクライナ軍の元要員がロシアのために前線で戦うことを「志願」と報じた。国際法違反に当たる可能性がある。

RIAノーボスチが今週公開した動画には、ウクライナの戦闘服を着た男性十数人がライフル銃を手に、式典でロシアへの誓いの言葉を述べる様子が映っている。部隊全体の規模は不明。

RIAノーボスチによると、宣誓した男性らは「志願兵」とされている。CNNは男性らが自主的に部隊に加わったのか、強制されたのか独自に検証できていない。ウクライナはこの報道についてコメントしていない。

RIAノーボスチは男性らの所属部隊について「ウクライナ軍の元兵士で構成された最初の大隊で、志願大隊の名称はボグダン・フメリニツキーにちなむ」と報じている。フメリニツキーはウクライナ人コサックを率いた17世紀の軍事指導者。

同通信によると、この大隊は10月にロシア軍の作戦戦闘戦術組織「カスケード」に組み込まれたという。

米ワシントンを拠点とするシンクタンク、戦争研究所(ISW)はロシア国営メディアの情報として、ロシアが10月後半、複数の流刑地からウクライナの捕虜70人を「採用」したと指摘した。

戦争捕虜をロシア軍に強制従軍させる措置は1949年のジュネーブ条約に違反するとみられる。国際赤十字によると、ジュネーブ条約は全ての国が採択している。

ISWは「ロシア当局はウクライナの戦争捕虜を脅し、ウクライナで戦う『志願』部隊への加入を強制した可能性が高い。これは戦争捕虜について定めたジュネーブ条約の違反に当たるとみられる」と分析した。



<https://news.yahoo.co.jp/articles/a934ba7db380515b1ee69090b3955dc04b113ed4/images/000>

## ⑦ロシア軍のドローンが前線で火力支援、ますます脅威に(Forbes, 2023年11月1日)

ロシアがウクライナに対して仕掛けた1年10カ月に及ぶ戦争において、爆発物を搭載したドローンはいま、双方にとって最も重要な武器のひとつとなっている。

突撃隊や補給部隊を襲い、防空施設や砲台を執拗に攻め、前線から数十キロメートル、あるいは数百キロメートルも後方に位置する航空基地を攻撃する。

最近までは、歩兵部隊が敵の陣地に近づいて攻撃する際にドローンが直接火力を支援することは通常なかった。火力支援としては、歩兵は依然として迫撃砲や肩撃ち式ロケット砲、速射できる機関砲を備えた戦車や戦闘車両に頼っていた。

それが変わり始めた。そして、通常の法則の例外として、かなりの技術革新を行っているのはロシア軍だ。

最近、ウクライナ南部のザポリージャ州とドネツク州の境にあるウクライナ軍の塹壕群を、ロシア軍の歩兵部隊が襲撃した際、ロシア軍はウクライナ軍の分隊に向けて爆発物を搭載した8機の一人称視点(FPV)ドローンを飛ばした。これによりウクライナ軍の兵士7人が死亡し、生き残った6人は後退



を余儀なくされた。

スタロマイオルスケとプリユトネの間にあるヴレメフスキー棚沿いで先週展開されたこの攻撃では、ロシア側に死者は出なかった。この集落はモクリ・ヤリー川渓谷に近く、そこでウクライナ海兵隊は今夏、大きく前進した。

戦争の最新情報をまとめるウクライナのディープ・ステート・プロジェクトは、この戦闘の映像を分析し、独立調査機関コンフリクト・インテリジェンス・チーム(CIT)がその分析を要約した。CIT は「ロシア軍の 4 つの突撃隊が攻撃支援で FPV ドローンを使っているのが観察された」と述べている。

「最初の映像では、ロシア軍の兵士らがドローンでウクライナ軍の塹壕を攻撃し、砲兵 1 名と兵士 3 名を殺害している」と CIT は続けた。

CIT によると、「その後、ロシア軍は即席の空爆を続けながら、2 つ目の塹壕を襲撃した」。ドローンがさらに押し寄せ、生き残ったウクライナ軍の兵士らは逃亡した。「ロシア軍は損害を被ることなく、これらの陣地を占領することができた」とのこと。

ロシアの宣伝工作を行う国営メディアなどは、最近の小戦を取り上げて、6 月初旬に始まったウクライナ軍の反攻が「完全に停止した」と宣言した。

それは事実ではない。だがウクライナ側がドローン対応に苦慮しているのは事実だ。「ロシア側も含め、要塞攻撃時にドローンが効果的に使用されていることから、対ドローン戦のさらなる展開に疑問が投げかけられている」と CIT は説明している。

ウクライナ側は、強力な電波妨害装置や車両の周囲に取り付けるケージ装甲、ゲパルト自走対空砲など、ロシア軍のドローンの飛行を落下させたり逸らせたり撃ち落としたりするシステムを続々と配備している。だが、防御の大半は前線から何キロメートルも後方で機能し、戦闘の最前線にいる歩兵のためのものではない。



Shutterstock (フォース ジャパン編集部)

<https://news.yahoo.co.jp/articles/d88f095e80de12c6e15808cbbf0bc772508106f4/images/000>

**⑧【ロシアニュース解説】ハマスとキエフ政権の繋がり～イスラエル訪問 2 度目も失敗 (2023年11月11日)** 約30分のニュース解説です。

※投稿者コメント:時事ネタ土曜版をお届け致します:

1. 不死身の男～ツアリョフさんインタビュー動画
2. 戦況
3. ダゲスタン空港暴動から読み解くキエフ政権の狙い

<https://youtu.be/-GXcMR2VBSs>



<https://www.youtube.com/watch?v=-GXcMR2VBSs>

## ⑨「機会を逃した」—ウクライナは自国に都合よく紛争を解決する機会を失った(米紙報道。2023年11月6日)

ウクライナは、ロシアとの紛争を交渉によって自国に都合よく解決するあらゆる機会を逃した。コラムニストのジェイソン・ウィリック氏がワシントン・ポストに寄稿した。

同氏によると、ウクライナ軍はひどく疲弊、消耗し、兵器備蓄も底をつき、西側諸国ではさらなるウクライナ支援に関する意見の相違がますます拡大している。

「(紛争を)交渉によってウクライナに都合よく解決する余地は、もしそれがかつてあったとしても、もちろんなくなった」

ウィリック氏によると、ウクライナはその反転攻勢によって他国の指導者たちのウクライナ支援継続への支持を得るはずだったが、今や「破滅的な敗北を防ぐための支援」をお願いしなければならないという。



[https://twitter.com/sputnik\\_jp/status/1721520099784360186](https://twitter.com/sputnik_jp/status/1721520099784360186)

## ⑩ゼレンスキーはロシアとのウクライナ戦争に負けることを知っている！(ライジングザ・ヒル TV USA、2023年11月7日)

約10分の動画ですが、字幕はちょっと変です。

<https://youtu.be/A-t-cwts6qo>



<https://www.youtube.com/watch?v=A-t-cwts6qo>